

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

福岡県大牟田市

学校名

福岡県立ありあけ新世高等学校

学校のURL

<http://ariakeshinsei.fku.ed.jp/>

2. 学校紹介

学級数

1年次6学級、2年次7学級、3年次6学級、【合計】19学級

児童生徒数

【全生徒数】749人（平成23年5月1日現在）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい生徒」

「主体的に考え行動し、調べる力、聞く力、まとめる力、発表する力などを身に付けた生徒」

【人権教育に関する目標】

人権に関する知的理解を深め、人権感覚を身に付け、自分の人権とともに他の人の人権を守ろうとすることができるようになり、それが日常生活の様々な場面で具体的な実践行動として現れるようにする。

人権教育にかかる取組の全体概要

学校の教育活動全体を通じた人権教育の推進

教科等指導、生徒指導、学級経営など、その活動の全体を通じて、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を一体となって取り組み、生徒一人一人が自分が大切にされていることを実感できる学校づくりを推進する。

指導内容の充実と指導方法の工夫・改善

各教科等の特質に応じ、指導内容・指導方法等を工夫・改善することを通して、「知識的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」の資質・能力を育成する。

3. 特色ある実践事例の内容

生徒一人一人にとって「安心できる居場所」のある学校づくり

～人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を通して～

(取組のねらい、目的)

人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を一体となって取り組み、生徒一人一人が自分が大切にされていることを実感できる学校づくりを推進する。

(取組を始めたきっかけ)

本校は、平成24年度に創立10周年を迎える福岡県筑後地区の公立高校で唯一の総合学科高校である。生徒一人一人が、自分の興味・関心をもとに、進路の実現に必要な力を身に付けることを目指している。

ボランティア活動や地域貢献活動など主体的・体験的な活動を充実させ、地域社会に貢献するとともに、それを進路実現に生かすことを重視してきた。

校訓「自律・自彊・飛躍」、校是「新世生よ、人生のプロデューサーたれ！」に基づいた「学校ビジョン」と「生徒行動指針」を策定し、本校で学ぶ生徒が目指す姿を具体的にイメージできるようにしている。

行動指針は、「社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度」、「適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能」など人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成にもつながる。

校是「新世生よ、人生のプロデューサーたれ！」
校訓 自律・自彊・飛躍

学校ビジョン
新世生よ、人生のプロデューサーたれ！
「自分にできることは何か?」と意識高く問いかけ、
高さと強い精神力で、困難に立ち向かい、
「なりたい自分」を、しっかりと見据えて努力し、
端をわきままえ、相手を重んじた行動で心深く話し合い、
人生を誇らるの半で仲間とともに切り拓き、
我が国に誇りと誇れる。
「勤勉・誠実・思いやりの心」を受け継ぎ、
地域に根ざして活躍することに静かな誇りを持って。

生徒行動指針
1 笑顔で明るく、大きな声で挨拶しよう
2 失敗を恐れず、自ら進んで行動しよう
3 自分の意見を持ち、相手に伝えることができるようになるよう
4 自分たちの力で企画・運営していく実行力を身につけよう
5 いろいろなことにチャレンジし、自分の夢や道を拓こう

教育目標
学校ビジョン及び生徒行動指針を具現化することによって、確信が自指す「志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つ、逞しい生徒」、更には総合学科高校が目指す「主体的に考え行動し、調べる力、聞く力、まとめる力、発表する力などを身に付けた生徒」を育成し、地域から愛され、信頼され、誇りとされる日本一の総合学科高校を作る。

「平成24年度入学者用学校案内」より

生徒行動指針

- 1 笑顔で明るく、大きな声で挨拶しよう
- 2 失敗を恐れず、自ら進んで行動しよう
- 3 自分の意見を持ち、相手に伝えることができるようになるよう
- 4 自分たちの力で企画・運営していく実行力を身につけよう
- 5 いろいろなことにチャレンジし、自分の夢や道を拓こう

そこで、人権教育の効果的な推進が、学校教育目標を達成するのに効果的であると考え、平成21年度から3年間、福岡県教育委員会から「人権尊重の学校づくり推進指定校事業」の指定を受け、取組を進めた。

(取組の内容)

(1) 人権が尊重される「環境づくり」

「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]及び「福岡県人権教育推進プラン」を踏まえ、人権尊重の視点に立った校内環境や教室環境の整備、教職員の人権尊重の理念の理解、人権が尊重される授業づくり等の在り方や具体的方策について、教職員間で共通認識を図るため、以下のような研修会を実施した。

学校における人権教育の効果的な推進について

生徒理解について

いじめ問題の取組について

各年次・各分掌からの提言

人権が尊重される授業づくりについて

このうち、では、保健環境部から、標語の作成・掲示やトイレの環境整備、広報部から、生徒の地域での活動状況の掲示などが提案され、職員室前の掲示板を設置するなど物的環境を整備した。

また、5月と12月に教育相談週間を設定し、学校生活アンケートをもとにした面談を行ったり、校内外における月1回の定期的な巡回指導を行ったりするなど、生徒指導部を中心に全職員の協力で「安心して過ごせる学校・教室」を目指した。

平成22年度実施の公開授業に際しては、生徒自身による農産物販売や、生徒の作品展示などを「生徒が自己存在感を感じる環境づくり」の一環として取り組んだ。



人権標語をトイレに掲示



生徒の地域での活動状況を掲示

(2) 人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」

すべての教科等で「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]～実践編～」にある「人権が尊重される授業づくりの視点例」を本校の実態に合わせて工夫改善したものを活用し、人権教育の目標と各教科等の目標やねらいとの関連を明確にした上で授業づくりに取り組んだ。

その際、人権に関する意識・態度、実践力を養う人権教育の活動と、それぞれの目標・ねらいに基づく各教科等の指導とが、有機的・相乗的に効果を上げられるようにすることや、個に応じた指導の充実を図ることについて教職員の共通認識を図った。

さらに、人権感覚を育成するために「自分で、感じ、考え、行動する主体的・実践的学習」を実施し、指導方法としては、生徒の「協力」「参加」「体験」を重視した。

(3) 特別活動やその他の特色ある教育活動を通じた人権教育の推進

ホームルーム活動や学校行事の目標や内容と人権教育の視点1（人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」）及び視点2（人権教育を通じて育てたい資質・能力）との関連を明確にした年間指導計画を作成し、取組を進めた。

また、新レインボーアンビシャスプロジェクトやマイランチデイなど特色ある教育活動においても、人権教育を通じて育てたい資質・能力を意識しながら指導内容を構成した。

平成23年度 「人権尊重の学校づくり」年間指導計画

視点1 人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」の一体的な取組みを実施する。
 視点2 人権教育を通じて育てたい資質・能力である、「知識的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」を位置付けて実施する。

月	活動項目	主な担当分掌	指導内容と人権教育の目標	視点1 (学校づくり)	視点2 (資質・能力)
4月	非行防止講演会	生徒指導部	正義と自立心を育て、集団との関わりで自主的に考え、行動する姿勢を育てる。	学習活動 人間関係	知識(自由・連帯) 価値態度(尊敬)
	体育大会オリエンテーション	体育科	本年度の体育大会のテーマ・趣旨等を生徒会が説明し、全校生徒が一体となって成功させようという意識を高める。	環境 人間関係	価値態度(参加・共生) 技能(共感力)
	社会人講演会	総合学科推進部	社会人の講演を聞き、人としてのあり方や、進路について考えさせる。	学習活動 人間関係	知識(責任・相互依存) 価値態度(参加) 技能(人間関係づくり)
5月	「EJが学校にやってきた」講演会	総合学科推進部	EJ世界の生活を理解し、よりよい人間関係を築こうとする意欲や態度を育てる。	学習活動 人間関係	知識(参加・共生) 価値態度(参加・共生)
	映画「アイコンタクト」鑑賞	総合学科推進部	聴覚障がい者のオリンピック「デフリンピック」に初出場した女子サッカー代表チームの映画を鑑賞し、障がい者への理解を深める。	人間関係 学習活動	知識(平等) 価値態度(多様性の尊重)
6月	体育大会	体育科	生徒が参加・協力して計画・立案し体育祭を成功させ、自己肯定感を高める。	学習活動 人間関係 環境	価値態度(参加・共生) 技能(共感力・コミュニケーション能力・問題解決力)
	マイランチデイ	生徒指導部	自分で昼食を作ることにより、食生活と自己のあり方を考えさせる。	学習活動 環境	価値態度(共生) 技能(共感力・人間関係)
	職員研修会	研修図書部	テーマ「生徒理解について」の研修を通じて、教職員の人権意識を高める。	学習活動 環境	知識(自尊感情) 価値態度(人間の尊厳)
	教育相談週間	保健環境部	生徒の状況を把握し、その課題解決のために支援をしていく。	環境	価値態度(人間の尊厳・共生) 技能(人間関係調整力)
	前期ガイダンス	教務部	進路や自己の学習状況を考えさせ、進路実現のための意欲を向上させる。	学習活動 環境	価値態度(自己尊重の感情・参加)
	人権・同和教育特設授業	人権・同和教育推進委員会	各年次が設定した個別の人権課題について、生徒に考えさせ、人権意識を高める。	学習活動 人間関係 環境	知識 価値態度 技能
7月	美化コンクール	保健環境部	協力して清掃活動することにより、環境を整備することの大切さを理解させる。	環境 人間関係	価値態度(共生) 技能(コミュニケーション能力)
	スピーチコンテスト	国語科	他の生徒の考えや意見を素直な気持ちで耳を傾け、自分のこととして考え、自己の向上をはからせる。	学習活動 人間関係	知識(尊敬・平等・連帯) 価値態度(人間の尊厳・共生)
	公開授業週間	研修図書部	職員相互の参観を通して、人権尊重の授業づくりのあり方を考える。	環境 学習活動	知識・価値態度・技能
8月	インターンシップ	進路指導部	職場体験を通じて、勤労の意義を理解させ、社会の発展に寄与する姿勢を育てる。	学習活動 人間関係	価値技能(参加・共生) 技能(共感力・コミュニケーション能力・問題解決力)
毎月	教育相談委員会	教育相談委員会	生徒の状況を把握し、その課題解決のために支援をしていく。	環境	知識・価値態度・技能

4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組が効果を上げた実際の事例)

(1) 教科指導を通じた人権教育の推進

保健体育科の球技(卓球)の授業では、各班毎に目標と作戦及び練習方法を選択・決定する機会を提供することで、「チームの課題を整理し互いに協力しながら自己の能力を十分に発揮し、ゲームに取り組もうとする意欲や態度を育成する。」という教科(球技・卓球)のねらいを達成するとともに、「自他の価値を尊重しようとする意欲・態度」や「コミュニケーション技能」など人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成を図ることができた。

目標	作戦
・コートサーブとスマッシュの打ち方を覚える。	・コートサーブとスマッシュの打ち方を覚える。
・相手より先に決められる意識をもつ。	・相手より先に決められる意識をもつ。
・スマッシュの打ち方を覚える。	・スマッシュの打ち方を覚える。
・チームに協力し合って、相手の打ちにくい球を打つ。	・チームに協力し合って、相手の打ちにくい球を打つ。
・コートサーブとスマッシュの打ち方を覚える。	・コートサーブとスマッシュの打ち方を覚える。
・スマッシュの打ち方を覚える。	・スマッシュの打ち方を覚える。
・コートサーブとスマッシュの打ち方を覚える。	・コートサーブとスマッシュの打ち方を覚える。
・スマッシュの打ち方を覚える。	・スマッシュの打ち方を覚える。
・コートサーブとスマッシュの打ち方を覚える。	・コートサーブとスマッシュの打ち方を覚える。
・スマッシュの打ち方を覚える。	・スマッシュの打ち方を覚える。

また、国語科では、1・2年次の国語表現の授業でグループ学習を取り入れ、与えられたテーマについて協議をしたり、発表したりする協力的・参加的な学習を行った。例えば、詩歌の鑑賞では、4人グループで句ごとに区切った短歌を復元・完成させる話し合い活動を取り入れることにより、「授業に参加している」という実感を持たせるとともに、「多様性への開かれた心と肯定的評価」や「能動的な傾聴」「生産的・建設的に活動する能力」を促進させることができた。



以上のように、人権を尊重した授業づくりの視点を明確にしたことで、教科指導における人権教育推進の在り方や方向性についての合意形成が図られ、各教員が、日常の授業を人権を尊重した授業づくりの視点から見直し、改善することができた。

とりわけ、人権感覚を育成するには、「価値的・態度的側面」や「技能的側面」に属する諸要素の特定の側面に焦点を当て、個別的、具体的な指導内容を構成してこれを実施していくことが効果的であった。

(2) 特色ある教育活動を通じた人権教育の推進
新レインボーアンビシャスプロジェクト

本事業は、一人一人の生徒が学校・地域の特性を生かした自主的・創造的な取組を行い、学ぶ意欲の向上を図り、今後の社会の変化に対応できる心豊かで幅広い視野をもったたくましい青少年の育成に資することを目的とし、福岡県の各県立高等学校で実施しているものである。

本校では、「学校ビジョン」の「人生のプロデューサー」がいかなるものかを体験的な活動を通して学び、学校生活で生かしていくことができるようにすることをねらいとして、以下のようなボランティア活動（地域貢献活動）を行った。



落書き消し隊

活動名	活動のねらい
地域おこしコーポ(てっぱん部)	各種地域おこし推進団体と連携した地域おこし事業に取り組むことで、地域を活性化させようとする意欲を高める。
落書き消し隊	地域の環境美化に協力することで、地域の発展に努め、安全・安心なまちづくりへの参画意識を高める。
大牟田市動物園支援事業	動物園関係者等との交流や各種イベントに携わることで、社会性を身に付け、企画運営力を育む。
新世お助け隊	地域の要請に応えたボランティアを実施することで、社会貢献への意識を高め、地域で意欲的に活動する態度を養う。
地域交流	幼稚園児に農業体験を指導し、交流を図ることで、地域や他者のために行動しようとする態度を養う。
生き生きサロン	高齢者との交流や、趣味・リハビリの提供を通して、地域社会に貢献しようとする態度を養う。



地域交流



生き生きサロン

生徒自身が、他者と連携し、積極的に社会に参加・参画する活動を企画・立案・実践することで、地域に貢献できたという達成感や成就感を味わい、自己肯定感を高めるとともに、「人権課題の当事者を支援しようとする意欲や態度」、「社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度」、「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」など人権教育を通じて育てたい資質・能力を育成することができた。

マイランチデー（お弁当の日）

生徒たちが、豊かな社会性を育み、「生きる力」を身に付けていくためには、何よりも食が重要であり、様々な経験を通じて、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることが求められている。

そこで、本校では、学期に1回、生徒全員が自分でお弁当をつくってくる「マイランチデー」を設定し、食に関する指導の目標のなかの「食事の重要性」、「感謝の心」、「社会性」を指導の重点とした。「マイランチデー」では、班で昼食を食べ、2・3年次生は、班で話し合っ、一人一品を持参し、全員でお弁当のメニューになるようにした。

この取組を通して、「人間の尊重」、「生命尊重」、「多様性の尊重・共生」、「他者への関心」、「協力的に問題解決に取り組む技能」など人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成を図った。



5. 実践事例についての評価

（公開授業参加者等の反応）

平成22年度第2回福岡県人権教育研修会として実施された公開授業では、参加者から、次のような感想が寄せられた。

他校からの参加者のアンケートから

- 「人権が尊重される授業づくり」というと、とにかく教材の内容に人権的な視点を入れなければならないと思いがちである。しかし実際には、内容とともに教授法の工夫の中にもりこむことで、「自分が大切にされている」と実感させることも大切だと思った。
- 班に分かれて、協力し話し合っ、まとめた文章を発表する形でしたので、生徒たちの活動する様子がとてもよくわかりました。自分の考えを表明することで、お互いの意見を尊重するという目標が達成できていると感じました。
- 数学の授業に、人権の三つの視点が見事に取り入れられていた。それは教材の中ではなく生徒のやりとりの中に感じられ、素晴らしいと思う。
- 日々の授業が講義中心になってしまい、生徒の活動や発言の場を増やさねばと悩んでいるところに、班別学習を取り入れた授業を参観させていただき、今

後の授業に生かさせていただきます。

- 二人一組で、分からないところは互いに助け合って、気をつけながら取り組んでいました。見る・知る・触れるを通じながら、人とのかかわりで人権感覚が磨かれることを改めて感じました。

公開授業担当者のアンケートから

- 人権が尊重される授業づくりという視点で、授業のあり方を見直すことができたと思います。
- 人権が尊重される授業づくりの視点を取り入れながら授業を行うのは大変だった。しかし、この視点を取り入れて授業を行った結果、生徒の学習意欲も向上しているように感じた。
- 教科で話し合って作成したので、生徒が活動する場面の設定や教材の準備など教師側も協力し合い、公開授業の趣旨にあった内容ができた。

生徒感想文から

- 班の人と協力する授業で、楽しく学べたと思う。自分たちで考えながらできたので、よくわかった。
- 班になることで、みんなの意見を聞いて、自分の意見と比べることができたし友だちがそんなふうに考えていたんだと、新たな考えが生まれました。
- 自分たちも、授業に参加できる形だったので、とても楽しかった。

(取組の成果と課題)

「人権尊重の授業づくりの視点例」をすべての教科で検討したことにより、各教科の目標やねらい、学習内容と関連付けて、人権教育を通じて育てたい資質・能力を具体的に位置づけることができるようになった。

「協力」「参加」「体験」を重視する活動場面が増え、生徒の自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ態度につながってきた。

学校行事や地域貢献活動等の体験的学習でも、より主体的・積極的な活動が展開されるようになり、「学校ビジョン」や「生徒行動指針」に示している生徒が育ってきた。

平成23年度「学校生活満足度アンケート」の中で、中学校と比べて自分自身が「非常に積極的になった」「やや積極的になった」と答えた生徒が55%（1年次生）おり、生徒の主体性を育む取組の成果と見ることができる。

それぞれの取組の成果に対する客観的な検証法を確立し、今後の取組や活動に生かしていく必要がある。

今後は、以上のような成果と課題を踏まえて、これまでの授業での取組や、ボランティア活動・地域貢献活動等の体験的な活動について、人権教育の視点で検証することで、より充実した内容に発展させ、「人権が尊重される学校づくり」の更なる充実を目指したい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

福岡県立ありあけ新世高等学校

人権に関する知的理解や人権感覚が「日常的な様々な場面での具体的な実践行動」の中で生かされるように願い、良好な人間関係の育成、能動的な傾聴等の活動を意識的に組み入れている。とりわけ、全生徒を対象とした学期1回のマイランチディ（お弁当の日）での、班で持ち寄るメニューの取組（2・3年）など、楽しくユニークな取組が数多くみられる。総合学科高校の特色を生かしたての、幼稚園児への農業体験指導、高齢者交流などの地域貢献活動や、「協力」「参加」「体験」の要素を積極的に取り入れた教科学習（「短歌の鑑賞」での、グループによる短歌の復元・完成を目指す活動）など、豊かで多彩な学習・教育活動の工夫がみえる。高等学校段階での、学校としての特色を生かした人権学習の在り方を示す事例となっている。